



保育科 教授

中野 隆司 (なかの たかし)

Nakano Takashi

自己紹介 (プロフィール)	本学では、非常勤講師の時期も含めると、20年ほど教壇に立たせていただいております。授業やゼミを通して、保育者や教師を目指す学生の皆さんと関わることはとても楽しく、あっという間に年月が過ぎたような気がします。貴重な体験であったと思いますし、これからもそうであると確信しています。
学生へのメッセージ	私の専門は心理学です。よい保育者、よい教育者になるために、心理学は必ず役に立つと信じています。ぜひ、心理学に興味をもってください。また、学生時代は勉強だけでなく、さまざまなことに興味・関心をもち、いろいろな経験をしてください。
保有学位	修士 (教育学) 慶應義塾大学
保有資格・免許	高等学校教諭一級普通免許状 (社会) 中学校教諭一級普通免許状 (社会)
研究分野	発達心理学 教育心理学
主な担当科目	発達心理学 I 教育心理学 <食物栄養科> 発達心理学特論 I <専>
学内での活動	研修部長 FD委員会委員長
学外での活動	大学コンソーシアムやまなし単位互換部会委員 (H22~) 大学コンソーシアムやまなしコミュニティーカレッジ部会委員 (H22~)
所属学会	日本教育心理学会、日本心理学会、日本発達心理学会 日本保育学会 日本認知科学会

主な職務実績（抜粋）

事項 (単独・共同)	年月日	概要
社団法人全国保育士養成協議会児童福祉施設福祉サービス第三者評価機関評価調査者（共同）	H14、15 17、18 年度	左記評価機関より評価調査者に委嘱された。各年度とも保育所1件について、3名から成る評価チームで、同機関が規定する調査方法・調査内容（調査項目）により、書面調査と訪問調査を行った。そしてチームとしての評価結果を評価機関に報告した。
社団法人全国保育士養成協議会専門委員（共同）	H15.6 ～H19.5	専門委員会による保育士養成に関わる共同研究（課題研究）に携わった。その成果は、保育士養成資料集第38号（社団法人全国保育士養成協議会専門委員会平成15年度課題研究報告）、同40号（16年度）、42号（17年度）、44号（18年度）、46号（19年度）として発刊された。
社団法人全国保育士養成協議会『保育士養成研究』編集委員（共同）	H15～ 18年度 (H19 ～21、23 ～24年 度)	『保育士養成研究』第21号（平成15年度）～24号（18年度）の編集委員として、投稿論文の査読及び編集に携わった。第25号（平成19年度）～27号（21年度）及び29号（23年度）～30号（24年度）の編集には、査読協力者として関わった。
山梨県福祉サービス評価推進機構（社会福祉法人山梨県社会福祉協議会）平成17年度評価調査者養成研修会講師（共同）	H17.9. 20 H17.10. 4	左記機構に評価機関として認定を申請している法人等に所属する評価調査者を養成する研修会の講師を委嘱された。保育所の第三者評価について各日以下のような内容の指導を行った。 9月20日：利用者調査の方法等について講義。保育所利用者（保護者）を対象とする調査の目的、方法、結果のまとめ方等を解説した。 10月4日：保育所における訪問調査の実習に同行し、適宜助言等を行った。

主な教育研究業績（抜粋）

著書、学術論文等 (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等	概要
保育に役立つ教育心理学（共著）	H17.6	大学図書出版	主に保育士、幼稚園教諭養成課程で使用することを前提として作成されたテキスト。全8章（心理学の基礎、発達の心理学Ⅰ、発達の心理学Ⅱ、学習の心理学Ⅰ、学習の心理学Ⅱ、性格の心理学、適応の心理学、評価の心理学）。このうち第5章「学習の心理学Ⅱ」を担当し、1. 学習の方法、2. 学習の転移、3. 動機づけ、4. 適性処遇交互作用（ATI）について解説した。
保育実習指導のミニマムスタンダードー現場と養成校が協働して保育士を育てるー（共著）	H19.9	北大路書房	前年度に発表した保育実習ミニマムスタンダード試案について全国保育士養成協議会会員校及び関連職能団体を対象に行ったアンケート調査結果などをもとに、ミニマムスタンダードに反映させるべき課題を明らかにし、それらから得られた課題に対する著者らの見解も踏まえつつ、試案の再検討によりミニマムスタンダードを策定した。（社団法人全国保育士養成協議会編）
保育科学生の自己像及び理想の保育者像認知と専門職への適応（6） - 自己像・理想像及び特性不安に関する在学中と卒業時の縦断的研究 -（共著）	H22.5	日本保育学会 第63回大会発表要旨集	短大保育科に在籍する保育科学生の自己認知・理想像認知及びその差異（GAP）と、特性不安との関連が、同一集団における在学中と卒業時でいかなる変化を示すか縦断的に検討した。その結果、卒業時は在学時よりもGAPが小さく、卒業時に誠実性や拡散的思考性を自分が備えていないと捉える者ほど不安が高まる傾向が在学中より顕著になること、卒業時に特性不安が高い者ほど自己像と理想像に隔たりがあると捉えられることなどが示唆された。
教育相談ー子どもの理解とカウンセリングー（共著）	H24.3	大学図書出版	子どもの教育や保育に関わる専門職を目指す学生が学ばべき「教育相談」あるいは「(学校) カウンセリング」などの授業で使用することを想定したテキスト（全12章）。そのうち、教育相談を行う上で必須となる対象理解のための「第2章 子どもの身体と心の発達」を担当し、「身体の発達」、「発達課題」、「認知の発達」、「自我の発達」について解説した。